建築デザインを介した生活空間支援の実践的研究

研究代表者　入江　正之
（創造理工学部 建築学科　教授）

１．　研究課題

時代の変革期において、建築の概念も変化してきており、その自覚のもとに建築デザインを介して、社会における多様で、新しいニーズにどのように対応していくかが問われている。建築的遺構の修復・再生とそれに伴う街の活性化支援、地方歴史的都市の街づくり支援、また都市の文化的施設の多様な展開における記念館等建築の今日的在り様、さらに幼児・初等教育環境の空間的在り方などをキーワードとして、当該研究は建築デザインが社会におけるニーズ動向に対応して、多様で、新しい生活空間要求に支援という視点で、それらの課題をどのように実現できるかを、問うものである。

２．　主な研究成果

2.1 スペイン、カタルーニャの伝統的石造民家マジアの修復・再生に関する研究

スペイン、カタルーニャ州の伝統的石造民家マジアの残存遺構について、タラゴナ県ファッチェス離村集落にある対象遺構 A 棟について修復・再生を行ってきた。2015 年度の修復・再生の第三ステージである A－3 住戸の西側から南側に至る擁壁的外部壁体の石積み作業を背景として、それら修復された建築遺構の活性化活用の一つとして提案してきた建築デザインを主題とするワークショップを実行することができた。今年度は AKIYA「空家」を課題として、本学建築学科とバルセロナ建築大学の教員と院生・学生によるワークショップを行い、当該建物と周縁を場所として各チームが提案をし、当該市の市長も講評会に参画することで、建築遺構の活性化活用を通じた街づくりへの意見交換を行うことができた、と共に当該研究の展開形を示すことができたと考える。

2.2 人間生活遺構研究

九州、佐賀県鹿島市を対象に街づくり提案を行うとともに、江戸時代から続く酒蔵のある歴史都市である本市のさまざまな研究を行ってきた。6 年目に入った今年度は、昨年に続き“観光”をキーワードとして、観光の見方を新しい角度で捉えること、今年度は外国人から見た観光の在り方を問うことでということで、これまでの歴史的な建築遺構、自然景観に依拠した象徴的認識に対して、鹿島の市民の日常生活圏自身が観光対象になりうることへの認識の転換への端緒を開示できたと考える。日本全国の都市・街を描いた絵師、吉田初三郎の鹿島の鳥瞰図二枚を下敷きに、市民の日常の生活者の視線・視点に基づく鹿島の都市景瞰図をその成果とした。

2.3 漱石山房記念館

新宿区主催の「漱石山房記念館設計プロポーザルコンペティッション」の一位作品で、2016 年 4 月に着工し、2017 年に建築工事竣工、以降展示工事が 9 月まで継続し、当該月末に開館を迎える。本計画の設計監理指導を年度初めから今日まで行ってきた。2017 年 9 月 24 日の開館まで、展示に関するこれからの作業も見守りながら作業を進めているところです。

2.4 教育施設・Luxe こだま幼稚園増築計画

高崎で幼児教育に 40 年に亘って携わる学校法人、北村学園ではナトゥーラ・こだま幼稚園とティエラ・こだま幼稚園子育て支援センターをこれまでに施設設計支援を行ってきた。今年度は両者の間に幼稚園施設の増築計画を行い、この 3 つのプロジェクトを通じて幼児教育の実践を初等教育にまで展開する学園の教育理念に資する建築的提案としてまとめたものである。

３． 共同研究者

小松幸夫（創造理工学部・建築学科・教授）
長谷見雄二（創造理工学部・建築学科・教授）
田辺新一（創造理工学部・建築学科・教授）
輿石直幸（創造理工学部・建築学科・教授）
山村健（創造理工学部・建築学科・専任講師）
吉川由（創造理工学部・建築学科・専任助手）
和久田幸祐（理工学研究所・招聘研究員）
早田大高（理工学研究所・招聘研究員）

４． 研究業績

4.1 建築作品

入江正之、入江高世、和久田幸祐、早田大高、吉川由、三角俊喜、内藤記念館再整備建築基本設計業務プロポーザルコンペティッション、ファイナリスト準優秀賞作品、2016 年 5 月

入江正之、入江高世、伊原慶、吉川由、三角俊喜、八戸市新美術館基本設計プロポーザルコンペティッション、2017 年 1 月、フィールドワーク作品

4.2 著作

入江正之、カタルーニャ建築探訪、早稲田大学理工研叢書シリーズ No.29、早稲田大学出版部、2017 年 3 月

4.3 論文

人見将敏、入江正之、機関誌『A.C.』にみられる、近代建築と地中海民家建築との関係について－建築家集団 G.A.T.C.P.A.C.（現代建築の発展を目指すカタルーニャの建築家技術者集団）研究（2）、日本建築学会計画系論文集 82（731）、p.p.235 - 242、2017 年 1 月

入江正之、山村健、特集　光と調和のヴィジョン　アントニ・ガウディ、花美術館、No.52、p.p.3 - 45、2017 年 2 月 1 日

4.4 講演

入江正之、「漱石山房記念館」について、新宿区文化センター、2017 年 3 月 17 日

4.5 学術講演・講演

山村健、入江正之、美学者ミラ・イ・フンタナルスの思想について（10）　―アントニ・ガウディ・イ・コルネット研究―、日本建築学会 2016 年度大会（九州）、学術講演梗概集 F2、p.p.239 - 240、2016 年 8 月

木村由佳、人見将敏、入江正之、Antonio Bonet 研究－カタルーニャモダニズム G.A.T.C.P.A.C. を背景として、日本建築学会 2016 年度大会（九州）、学術講演梗概集 F2、p.p.871 - 872、2016 年 8 月

５．　研究活動の課題と展望

建築デザインは社会動向（政治、経済、文化、生活等全般）に直崔に関わる事象であるがゆえに、常態が本質的に変容を旨としている。現在という状況は、ある傾向を不変として継続、維持していこうとしがちであり、建築デザインの本質的様態を時間の急速な展開の内に見逃してしまいかねない。社会の動向にあるニーズを改めてとらまえ、建築デザインの概念を生活支援に向けて、常に更新していくことが望まれる。生き生きとした取り組む姿勢が必要とされよう。